

科目名 Subject Name	Speaking Skills I A				
科目名(英) Same as Above	Speaking Skills I A				
単位数 Credits	4	時間数 Hours	60	担当者 Instructor	Ian Dagnall, Scott Clark, Jason Heliopoulos, Laurel Pegler, Andy Highcock, Keith Kelly, Scott Newby
実施年度 Year	2021	実施時期 Semester	前期	実務家教員 担当科目 Instructor with Career in Subject Area	
対象学科・学年 Class	International Business 1				
授業概要 Subject Description	1. Students can improve their English proficiency. 2. Students can gain more confidence in using English. 3. Students can gain English skills for living abroad, work and proficiency tests.				
授業形式 Class Format	講義: Lecture	△	演習: Practice	○	実習: 実技: ※ 主たる方法: ○ その他: △
学習目標 (到達目標) Specific Targets in Focus	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○		○	
目標 Targets					
Students can improve their English proficiency.					
Students can gain more confidence in using English.					
Students can gain English skills for living abroad, work and proficiency tests.					
テキスト・教材 参考図書 Textbooks and References	Speak Out Elementary A				
授業計画 Class Schedules and Contents	回数	授業項目・内容 Topics and Contents			授業外学修指示 Preparation and Review
	1	Placement Test			none
	2	Level Check 2			none
	3	Level Check 3			none
	4	Get to know your teacher			none
	5	1.1 Nice to meet you			Preview lesson materials
	6	1.2 Travel light			Preview lesson materials and review previous lesson
	7	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	8	1.3 Can I have a coffee?			Preview lesson materials and review previous lesson
	9	1.4 Faulty Towers (needs DVD player)			Preview lesson materials and review previous lesson
	10	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	11	1.5 Look back			Preview lesson materials and review previous lesson
	12	Teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	13	2.1 Join us!			Preview lesson materials and review previous lesson
	14	2.2 High flyers			Preview lesson materials and review previous lesson
	15	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	16	2.3 What time does it start?			Preview lesson materials and review previous lesson
	17	Bus Hike (No class)			Preview lesson materials and review previous lesson
	18	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	19	2.5 Look Back			Preview lesson materials and review previous lesson

評価方法
Assessment
Method

科目名	MOS演習 I A						
科目名(英)	MOS I A (Excel)						
単位数	4単位		時間数	60		担当者	宮原 裕花
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年						
授業概要	タイピング練習にて、正確で速いタイピング技術を身につける。 Excelの基本操作を学び、ビジネスで活用できる表やグラフ作成などを練習する。 また、MOS Excel対策問題の演習を通じて、応用力を養い、MOSの合格を目指す。						
授業形式	講義：	△	演習：	○	実習：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			正確で速いタイピングができる。	
	○	○				ワークシートやブックの作成と管理ができる。	
	○	○				セルやセル範囲のデータの管理、テーブルの作成ができる。	
	○	○				数式や関数を使用した演算の実行ができる。	
	○	○				グラフやオブジェクトの作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(1)		16	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(2)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	2	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(2)		17	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(3)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	3	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(3)		18	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(4)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	4	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(4)		19	タイピング練習 グラフやオブジェクトの作成(1)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	5	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(5)		20	タイピング練習 グラフやオブジェクトの作成(2)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	6	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(6)		21	タイピング練習 グラフやオブジェクトの作成(3)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	7	タイピング練習 セルやセル範囲の作成(1)		22	タイピング練習 グラフやオブジェクトの作成(4)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	8	タイピング練習 セルやセル範囲の作成(2)		23	模擬問題(1)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	9	タイピング練習 セルやセル範囲の作成(3)		24	模擬問題(2)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	10	タイピング練習 セルやセル範囲の作成(4)		25	模擬問題(3)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	11	タイピング練習 テーブルの作成(1)		26	模擬問題(4)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	12	タイピング練習 テーブルの作成(2)		27	模擬問題(5)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	13	タイピング練習 テーブルの作成(3)		28	模擬問題(6)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	14	タイピング練習 テーブルの作成(4)		29	模擬問題(7)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
	15	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(1)		30	模擬問題(8)		テキストの該当範囲に目を通しておくこと
評価方法	(1)タイピング速度の記録を取る。(2)テキスト、各章ごとの確認テストを行う。(3)検定試験(MOS)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	検定試験(MOS)	○	◎	○			50%
	確認テスト	○	◎	○			20%
	タイピング技能			◎			30%
履修上の注意	PC教室の整理・整頓に留意すること。						

科目名	英語検定対策(TOEIC) I A				
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	和田 菜穂
実施年度	2021年	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて 客室乗務員として勤務
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	国際国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。				
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
	○	○			社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベル分けテスト			
	2	TOEIC学習目標と出題形式、解法のテクニック Part5対策 ボキャブラリー WORD FORM(品詞、派生語)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	3	Part5対策 ボキャブラリー 前置詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	4	Part5対策 ボキャブラリー 接続詞 前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	5	Part5対策 ボキャブラリー 動詞、助動詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	6	Part5対策 ボキャブラリー 代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	7	Part5対策 ボキャブラリー 形容詞、副詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	8	Part5対策 ボキャブラリー 冠詞、序数			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	9	Part5対策 ボキャブラリー 比較級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	10	Part5対策 ボキャブラリー 最上級			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	11	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	12	Part5対策 ボキャブラリー 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	13	Part5対策 ボキャブラリー 動名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	14	Part5対策 ボキャブラリー 分詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	15	Part5対策 ボキャブラリー 関係代名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	16	Part5対策 ボキャブラリー 関係副詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	17	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	18	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	19	Part7対策 ボキャブラリー 文法(話法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	20	Reading part6対策 ボキャブラリー			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	21	Reading part6対策 ボキャブラリー			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	22	Reading対策 ボキャブラリー Skimming Scanning			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また 単語テストに向けた予習を行うこと。
	23	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違 違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	24	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違 違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	25	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違 違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。

	26	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	27	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	28	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	29	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	30	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	31	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	32	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	33	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	34	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	35	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	36	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	37	Reading Part7対策 リスニングPart3対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	38	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	39	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	40	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	41	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	42	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	43	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	44	Reading Part7対策 リスニングPart4対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	45	定期試験対策 学期総括	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○				10%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(2級)対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	石田 小雪・野々村 賢一
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)					
事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。					
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト 直前の技術、TOEICテスト新形式精選模試L&R				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト			
	2	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検模擬試験 問題1 筆記			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問1、2			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	英検模擬試験 問題1 モデルライティング練習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	英検本試験解説 大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	英検本試験解説 大問2			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	英検本試験解説 大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	学外英語研修			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	英検本試験解説 モデルライティング練習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	31	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	32	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	33	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	34	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	35	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	36	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	37	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	38	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	39	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	40	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	41	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	42	TOEIC模擬試験 問題1 筆記	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	43	TOEIC模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	44	TOEIC模擬試験 問題1 解答&解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	45	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検2級完全合格を90点、1次合格を85点、1次不合格のバンド1～3は80点～75点、バンド4～6は75点～70点、バンド7以下は65点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	英検2級試験	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(準2級)対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	稲垣明子・村上正雄・岡本彩
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)					
電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問、TOEIC公式問題集				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション			
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	21	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。

	24	学外英語研修	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	25	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	26	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	27	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	28	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	29	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	30	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	31	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	32	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	33	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	34	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	35	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	36	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	37	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	38	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	39	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	40	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	41	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	42	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	43	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	44	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	45	前期まとめ	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検準2級完全合格を85点、1次合格を80点、1次不合格のバンド-1は75点、バンド-2は73点、バンド-3は70点、バンド-4は68点、バンド-5は65点、バンド-6は63点、バンド-7以下は60点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	英検準2級試験	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石田 小雪
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	語学教育企業にて 数か国のネイティブと勤務
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
品詞の役割と英文構造を理解することができる。					
文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。					
正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。					
不定詞と動名詞を使い分けすることができる。					
テキスト・教材 参考図書	英文法トレーニングノートα、英文法・作文トレーニングノートα、英文法トレーニングノートβ				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	代名詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	代名詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	接続詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	接続詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	不定詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	不定詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	動名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	動名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 IA				
科目名(英)	General English IA				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	村上 正雄
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系翻訳会社にて勤務
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト			
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	第三文型、第一文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	第四文型、第五文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	第二文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	第三文型、第一文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	第四文型、第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	その1 時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	その1 時制 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	その2 完了形 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	復習 その1 時制・その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	本番前復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	その3 助動詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	復習 その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	その4 受動態 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	復習 その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	復習 その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	復習 その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	その6 動名詞 つづき 復習 その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	復習 その6 動名詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	問題演習 その1	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	問題演習 その2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1) 定期試験（筆記）を実施する。 (2) 学内でTOEIC（IP）検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC（IPテスト）	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
品詞の役割と英文構造を理解することができる。					
文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。					
正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。					
英語の時制を理解し、身の回りの出来事を表現できる。					
テキスト・教材 参考図書	基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル・ステップアップ英文法基礎				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	時制④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	時制⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	助動詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	代名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	代名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	代名詞③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	前置詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3) 品詞テストを10回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	品詞テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村 賢一
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
品詞の役割と英文構造を理解し、説明することができる。					
文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。					
正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。					
不定詞と動名詞を使い分けすることができる。					
テキスト・教材 参考図書	英文法トレーニングノートα、英文法・作文トレーニングノートα、英文法トレーニングノートβ				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	なぜ5文型の把握が大切なのか①英語が複雑になる3大理由①修飾語			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	3つの構成単位: 語・句・節			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	句と節の対処法: 句・節の「範囲」を把握し、()でくくる			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	なぜ5文型の把握が大切なのか? ②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	句・節の「役割」を特定する			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	なぜ5文型の把握が大切なのか③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	読解問題①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	読解問題②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	準動詞の概要: To V とing			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	不定詞の名詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	不定詞の形容詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	不定詞の副詞的用法: 問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	ingの用法①動名詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	ingの用法①動名詞の文法問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	ingの用法②分詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	関係代名詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	関係副詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	関係代名詞と関係副詞の使い分け・文法問題・読解	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	まとめ①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	まとめ②	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A						
科目名(英)	General English I A						
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	今長 まゆみ	
実施年度	2021年度		実施時期	前期	担当者実務経験	航空会社にて地上職員として勤務	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年生						
授業概要	TOEICや英検、日常会話の基本は中学英語にある。 中学から学習してきた英語文法を基礎からやり直し、日常生活において話す、聞く、読む、書くための基礎的な力を身につけることを目指す。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自分の身の回りのことを説明することができる。(話す)	
	○	○				相手の話すことを聞いて、理解することができる。(聞く)	
	○	○				簡単な説明文やメールなどを読み、その内容を理解することができる。(読む)	
	○	○				自分の身の回りのことを文章で説明することができる。(書く)	
テキスト・教材 参考図書	くもん出版『中学英語基礎がため100%』2012年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、実力確認テスト				特になし	
	2	I S1-1(This is～の文①)、S1-2(This is～の文②)				プリント類を整理するファイルを準備しておくこと	
	3	S2-1(be動詞1)				間違えた問題を再度確認すること	
	4	S2-2(be動詞2)				間違えた問題を再度確認すること	
	5	S3-1(一般動詞①)、S3-2(一般動詞②)				次回まとめテストの準備のため、復習しておくこと	
	6	まとめテスト①(S1,2,3)、S4-1(形容詞と冠詞①)				間違えた問題を再度確認すること	
	7	S4-2(形容詞と冠詞②)、S5-1(複数の文)				間違えた問題を再度確認すること	
	8	まとめテストFB、S5-2(複数の文②)、復習(英語の品詞)				間違えた問題を再度確認すること	
	9	S6-1(likes, hasなどの文①ー3単現)、S6-2(likes, hasなどの文②ー3単現)				間違えた問題を再度確認すること	
	10	復習(be動詞、一般動詞、3単現のS、現在形疑問文)、S7(代名詞とWhose～?)				次回まとめテストの準備のため、復習しておくこと	
	11	まとめテスト②(S4,5,6,7)、S8(命令文)				間違えた問題を再度確認すること	
	12	まとめテストFB、S9-1、2(時刻などの言い方①時刻②曜日、日付)				間違えた問題を再度確認すること	
	13	S10-1(How, Wh疑問文①)				間違えた問題を再度確認すること	
	14	S10-2(How, Wh疑問文②)				間違えた問題を再度確認すること	
	15	S11-1(現在進行形①-ingの付け方、否定文)、S11-2(現在進行形②-疑問文)				次回まとめテストの準備のため、復習しておくこと	
	16	まとめテスト③(S8,9,10,11)				わからなかった箇所を再度確認すること	
	17	S12-1(Canの文①ー肯定文、否定文)、S12-2(Canの文②ー疑問文、Who[What]can?)				間違えた問題を再度確認すること	
	18	まとめテストFB、S13-1(過去の文①一般動詞)規則動詞、不規則動詞肯定文				間違えた問題を再度確認すること	
	19	S13-2(過去の文②一般動詞)否定文、疑問文				間違えた問題を再度確認すること	
	20	S14(会話表現)				次回まとめテストの準備のため、復習しておくこと	
	21	まとめテスト④(S12,13,14)、総復習				間違えた問題を再度確認すること	
	22	まとめテストFB、II S2-1(過去の文ーbe動詞の過去の文)、S2-2(過去進行形)				間違えた問題を再度確認すること	
	23	5文型				間違えた問題を再度確認すること	
	24	S3-1(比較の文①原級、比較級、最上級)				間違えた問題を再度確認すること	
	25	S3-2(比較の文②more, most)				間違えた問題を再度確認すること	
	26	S3-3(比較の文③like better/best、疑問詞で始まる比較の文)				次回まとめテストの準備のため、復習しておくこと	
	27	まとめテスト⑤(S1,2,3)				わからなかった箇所を再度確認すること	
	28	まとめテストFB、前期試験対策				間違えた問題を再度確認すること	
	29	前期試験対策				間違えた問題を再度確認すること	
30	前期試験対策				間違えた問題を再度確認すること		
	(1)授業中、まとめテストを5回実施する。(2)学内でTOEIC (IP)を実施する。470点以上を80点、400点未満を75点以下、または70点以下とする。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	◎				20%
	まとめテスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	韓国語基礎A						
科目名(英)	Korean Basic A						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	水早 真弓・盧 愛蓮
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科 1年						
授業概要	韓国語の基礎、特にハングルの読み方と発音を正確に学習する。 韓国語は文字が読めないと学習できないため、この時期にしっかりと正確な読み方と発音を習得し、今後の韓国語学習につなげる。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ハングルの仕組みを理解し、読めるようになる。	
	○					発音変化の仕組みを理解し、的確に読めるようになる。	
	○		○			挨拶言葉を覚え、簡単な挨拶ができるようになる。	
	○	○	○			基礎的な文法を学習し、文章が作れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	・自作資料 ・基礎から学ぶ韓国語講座 初級						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ハングルを読もう！① 挨拶を覚えよう！①					
	2	ハングルを読もう！② 挨拶を覚えよう！②				習った部分を復習する。	
	3	ハングルを読もう！③ 挨拶を覚えよう！③				習った部分を復習する。	
	4	ハングルを読もう！④ 挨拶の小テスト				授業前：習った挨拶をテストに備えて覚える。 授業後：習った部分を復習する。	
	5	第1課 あいさつと自己紹介				習った部分を復習する。	
	6	第1課 あいさつと自己紹介				習った部分を復習する。	
	7	第2課 「～ですか」				習った部分を復習する。	
	8	第2課 「～ですか」				習った部分を復習する。	
	9	第3課 「～ではありません」＜否定形＞				習った部分を復習する。	
	10	第3課 続き 1課から3課までの復習				習った部分を復習する。	
	11	中間テスト				授業前：1～3課をテストに備えて覚える。	
	12	第4課 「あります／ありません」				習った部分を復習する。	
	13	第4課 「あります／ありません」				習った部分を復習する。	
	14	第5課 「します／しますか」(フォーマル体)				習った部分を復習する。	
	15	第5課 「します／しますか」(フォーマル体) + 前期の総復習				習った部分を復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト・中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	中国語基礎A						
科目名(英)	Chinese Basic A						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	陳 金陵・王 波
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	海外ビジネス科1年						
授業概要	中国語をマスターするための第一歩は発音です。ゆっくり時間をかけてピンインの発音をクリア その次 基本的な文法をふまえながら、できるだけ日常生活に合わせ、常用語を数多く取り入れて、中国語の文章表現を修得し、応用できるようになる。						
授業形式	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			常用言葉、単語を使い簡単な文法の応用、自己紹介ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	中国語はじめての一步						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	中国語入門 中国語の特徴及び習い方 自己紹介					
	2	ピンインの発声練習及び四声					
	3	単母音と子音をマスターして、四声を繰り返して、発音の特徴をつ					
	4	前回の復習 複合母音と四声のつけ場所 数字の練習					
	5	ピンインの発音チェックと発音練習					
	6	第1課 文法ポイント 是という判断文の文型					
	7	単語を読みながら、文法に基づいて会話する					
	8	文の解釈と応用プリント					
	9	小テスト 第2課 文法ポイント					
	10	指示代名詞と副詞と疑問詞					
	11	自分の苗字と出身地を中国語で言えるよう、人に聞けるよう					
	12	単語を読みながら、文法に基づいて会話する					
	13	一部の動詞を勉強して、更に会話の実力をアップする					
	14	一部の動詞を勉強して、更に会話の実力をアップする					
評価方法	(1)口頭試験を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(口頭試験加味)	○	○	○			100%
履修上の注意							

科目名	インバウンド概論①						
科目名(英)	Introduction & Relation of Inbound Business						
単位数	2単位		時間数	30時間(内15時間)		担当者	柳原 久一郎
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	ホテル経営企画部門 27年
対象学科・学年	海外ビジネス科1年						
授業概要	インバウンドビジネスに関わる行政やホテル、航空、空港や取り巻く環境について業界の知識と今後の傾向を学び併せて国際的センスを養う。ビジュアルツールを用いた講義および確認テストで構成。昨今の海外事情と新型ウィルス発生に伴う業界の動向についても解説する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					航空・ホテル・空港の各業界の動向について行政の関わりと合わせて説明することができる。	
	○					航空・ホテル・空港の各業界の用語について説明することができる。	
	○					主要国の首都・国家元首・通貨や経済と日本との関わりを説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	JNTO(日本政府観光局)他行政発行資料および業界誌、関連報道番組の視聴。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	昨今の海外事情に伴う業界の変化と今後の動向					
	2	海外ビジネスに必要な基本知識				次回の小テストに向け復習しておくこと	
	3	MICEとは？ 福岡市への誘致プロジェクトと世界の動向				次回の小テストに向け復習しておくこと	
	4	ホテルビジネスの現状と業界知識				次回の小テストに向け復習しておくこと	
	5	航空業界の戦略と世界の空港ビジネス				次回の小テストに向け復習しておくこと	
	6	食の多様化への対応と動向・地域資源の活用と取り組み				次回の小テストに向け復習しておくこと	
	7	海外ビジネスにおけるリスクと世界経済動向					
	8	前半最終確認テスト 総合復習					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)最終回で全般にわたる確認テストを実施する。 (2)本科目の最終評価はインバウンド概論②と合算し評価とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末テスト	○					100%
履修上の注意	後半の7回を加えて出席が10回に満たない場合、8回目の確認テスト不参加の場合は評価の対象になりません。						

科目名	インバウンド概論②						
科目名(英)	Introduction & Relation of Inbound Business						
単位数	2単位		時間数	30時間(内15時間)		担当者	八尋 隆志
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	旅行会社にて外国人旅行部で勤務
対象学科・学年	海外ビジネス科 1年 A						
授業概要	インバウンドビジネスに関する行政やホテル、運輸機関、免税店などを取り巻く環境について業界の知識と今後の傾向や課題について学習し国際的センスを養い、ビジュアルツールを用いた講義及び確認テストで授業構成をする。また、今年はコロナウイルスによる外国人旅行者の動向についても学習します。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					訪日外国人が来日することによって日本経済はどう変わるのかしっかり定義できる。	
		○				訪日外国人が日本に何を求めて観光に来てなのか実際のツアーを検証して日本のプラス・マイナス面を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	観光ビジネス実践ワークブック(地域インバウンド) 横浜商科大学:編集 JATA資料及び業界誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	インバウンドとは(国内旅行・海外旅行の相違点)				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	2	外国人から見た日本の魅力(プラス・マイナス面)				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	3	実際の訪日外国人の行動				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	4	訪日外国人の日本への入国査証(VISA)				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	5	訪日外国人の国別の習慣や食事について				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	6	業界の専門用語の習得				新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。	
	7	業界の専門用語の習得及び定期テスト					
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)最終回で全般にわたる確認テストを実施する。 (2)本科目の最終評価はインバウンド概論①と合算し評価とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期テスト	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	前半の8回を加えて出席が10回に満たない場合、15回目の確認テスト不参加の場合は評価の対象になりません。						

科目名	サービス接遇					
科目名(英)	Hospitality and Service Skill Proficiency					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	稲岬 明子	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学病院にて秘書として勤務	
対象学科・学年	海外ビジネス科 1年					
授業概要	サービス業に就くうえで必要なビジネスマナーの基礎知識を学び、優れたサービススタッフとしての心構えや立ち居振る舞いができる。サービス接遇検定2級を取得する。就職活動に必要な社会人に相応しい言葉遣いができ、自分の意見をきちんと伝えることができるようになる。					
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					サービス接遇検定2級の範囲を網羅し、各セクションの小テストに合格する
		○				検定記述部分の敬語の模擬問題に合格する
		○				授業中に実施する過去問題を10回以上実施し、5回以上合格点を取る(理:7問、実:9問)
		○				検定記述部分の文書問題について、合格ライン(70点以上)の文書を作成する
テキスト・教材 参考図書	・早稲田出版 サービス接遇検定2級公式テキスト、サービス接遇検定実問題集 1・2級 ・ウィネット 実践ビジネスマナー					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	サービス接遇検定2級の範囲と合格ラインを理解し、実問題を解く。				テキストと実問題集を持ってくる
	2	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(商業用語)				指定されたページを読んでく
	3	Part I 実問題:実務編 解答と解説 Part II テキスト(経済用語)				小テスト①の勉強をしておく
	4	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(ことわざ①)				小テスト②の勉強をしておく
	5	Part I 実問題:実務編 解答と解説 Part II テキスト(ことわざ②)				小テスト③の勉強をしておく
	6	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(賀寿)				小テスト④の勉強をしておく
	7	Part I 実問題:実務編 解答と解説 Part II テキスト(年中行事)				小テスト⑤の勉強をしておく
	8	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(問題処理)				小テスト⑥の勉強をしておく
	9	Part I 実問題:実務編 解答と解説 Part II テキスト(環境整備)				復習プリントを提出すること(葬儀の知識)
	10	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(金品管理)				復習プリントを提出すること(賀寿)
	11	Part I 実問題:実務編 解答と解説 Part II テキスト(社交業務①)				社交業務の復習プリントを提出すること
	12	Part I 実問題:理論編 解答と解説 Part II テキスト(社交業務②)				
	13	分野別 五択プリント				疑問点を残さず、周りや担当教師に質問すること
	14	検定前 模擬試験①(不合格の人は補講)、記述式対策①				疑問点を残さず、周りや担当教師に質問すること
	15	検定前 模擬試験②(不合格の人は補講)、記述式対策②				疑問点を残さず、周りや担当教師に質問すること
	16	検定前 模擬試験③(不合格の人は補講)、記述式対策③				疑問点を残さず、周りや担当教師に質問すること
	17	検定前 模擬試験④(不合格の人は補講)				疑問点を残さず、周りや担当教師に質問すること
	18	本番の問題を自己採点				
	19	会社のしくみ、職種や部門、ライン・スタッフとは				
	20	自分の適性と職種選び、企業選び				
	21	OLの仕事(ルーティーンワーク、仕事ができる人とは)				
	22	お客様のご案内(上座、下座、受付応対ほか)				
	23	電話応対① 電話のかけ方と注意点				
	24	電話応対② 電話の受け方				
	25	ビジネスマナー コミュニケーション検定とは?				
26	ビジネスマナー 就職活動に向けての準備					

	27	ビジネスマナー スピーチにチャレンジ(話の組み立て)①			各自、自分のスピーチ内容を考えてくること		
	28	ビジネスマナー スピーチにチャレンジ(話の組み立て)②			各自、自分のスピーチを完成させてくること		
	29	ビジネスマナー スピーチにチャレンジ(グループ発表)③			グループ内で発表し、最優秀者は代表で全体に発表		
	30	期末試験 対策授業			これまでの小テスト、直前プリントを持ってくる		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。合格しなかった場合はやり直して再提出する。 (2)過去問題を実施し、5回以上合格する。 (3)宿題(過去問題5回分)を自己採点し、提出する。 (4)成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト・宿題	◎	○				20%
	検定結果	◎	○				10%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。年3回実施されるサービス接遇検定を受験し、合格を目指す。						

科目名	商業簿記A				
科目名(英)	Book Keeping I				
単位数	4単位	時間数	60	担当者	池前 むつみ
実施年度	2021年	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて経理担当として勤務
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	ビジネスパーソンに必須の基本知識である、日商簿記検定3級の資格取得が最終目標です。 お金の流れ＝簿記であるように、日々の取引の中でうまれたお金はどのように管理しているのか、また、管理していくのかを学びます。				
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
		○			
		○			
テキスト・教材 参考図書	実教出版日商簿記ゼミ3級教本・問題演習最新版 TAC出版究極の仕訳集日商簿記3級最新版				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	0簿記の学習にあたり 1.簿記の基礎			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	2	1-1簿記の目的と種類まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	3	1簿記の基礎 1-3簿記のしくみ(取引まで)			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	4	1簿記の基礎 1-3簿記のしくみ			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	5	2期中取引の仕訳 2-1現金取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	6	2期中取引の仕訳 2-2銀行預金取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	7	2期中取引の仕訳 2-3小口現金取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	8	2期中取引の仕訳 2-4商品売買取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	9	2期中取引の仕訳 2-4商品売買取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	10	2期中取引の仕訳 2-5掛け取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	11	2期中取引の仕訳 2-6掛け取引			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	12	2期中取引の仕訳 2-7手形取引まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	13	2期中取引の仕訳 2-8手形取引まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	14	2期中取引の仕訳 2-9その他の債権・債務取引まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	15	確認テスト(仕訳1)			これまで学習した仕訳の確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	16	確認テスト(仕訳2)			これまで学習した仕訳の確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	17	2期中取引の仕訳 2-11訂正仕訳まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	18	2期中取引の仕訳 3株式会社会計 3-2剰余金の配当と処分まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	19	1簿記の基礎(試算表) 1-4試算表			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	20	確認テスト(試算表1)			試算表のテストを実施するので、復習しておくこと。
	21	確認テスト(試算表2)			試算表のテストを実施するので、復習しておくこと。
	22	4決算(1)決算整理 4-4貸倒引当金の設定まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	23	4決算(1)決算整理 4-8その他の決算整理事項まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	24	5決算(2)精算表 5-1精算表の作成			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	25	6決算(3)主要簿の締め切り 6-2仕訳帳の締め切りまで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。
	26	7決算(4)損益計算書と貸借対照表 7-2貸借対照表の作成まで			教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。

	27	8伝票 8-3伝票からの転記まで	教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。				
	28	8伝票 8-3伝票からの転記まで2	教本の該当範囲を事前に読んでおくこと。				
	29	総復習	これまでの復習をするので、質問したい問題等をまとめておきましょう。				
	30	期末試験対策	これまでの復習をするので、質問したい問題等をまとめておきましょう。				
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 授業の中で確認テストを実施する。 (3) 課題と宿題の提出状況より。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	確認テスト	○	◎				10%
	課題と宿題		○				10%
履修上の注意	電卓(商業用)を使います※スマートフォン等での代用は一切認めません。簿記は反復練習がとても大切です。問題を解けば解くほど力がつきます。自宅学習(宿題)に進んで取り組みましょう。						

科目名	一般教養 I				
科目名(英)	General Knowledge I				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	市原 美智子
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	「全国通訳案内士」(2014年～現在)「くもん講師」(2年)児童英語講師(15年)
対象学科・学年	海外ビジネス科1年				
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
		○			
	○	○			
		○			
目標					
漢字検定準2級程度の漢字までは読み書きが出来る					
計算問題を中心に正確に解答することが出来る					
英検準2級程度の問題に解答することが出来る					
地理や政治における基礎的な内容を理解し説明が出来る					
テキスト・教材 参考図書	プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	科目概要説明(シラバス)			次回学習部分に目を通しておくこと
	2	ROUND1:漢字の知識、英語(動詞の活用変化)、主な国際機関について、時事用語			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	3	ROUND2:社会(環境問題、選挙について、国内政治について、宗教)、漢字の知識			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	4	ROUND2:英語(英文書き換え)、敬語表現、文学史			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	5	ROUND3:英語(単語の知識)、社会(憲法に関して、思想)、国語(漢字の知識、四字熟語)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	6	ROUND4:社会(歴史、国際連合について)、文学史			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	7	ROUND4:社会(歴史、地理)、計算問題(分数) ROUND5:国語(漢字の知識)、時事問題			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	8	ROUND5:社会(世界の発明家について)、英語(動詞の活用変化、時制、仮定法) ROUND6:主な国際機関、英語(空所補充)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	9	ROUND7:国語(四字熟語)、社会(各国の歴史と現在の状況、名言・名句) ROUND8:国語(ことわざ)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	10	ROUND8:社会(天皇の国事行為について、内閣について、歴史)、英語(単語の知識) ROUND9:英語(熟語の知識)、時事用語、数学(損益算)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	11	ROUND9:社会(歴史、国内経済)、数学(指数、割合)、英語(空所補充)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	12	ROUND10:英語(単語の知識)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	13	ROUND10:社会(経済)、数学($\sqrt{\quad}$ の計算)、国語(漢字の知識)			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	14	ROUND10:社会(各国の歴史と現在の状況)、英語(空所補充)、時事問題			テキストの該当部分の復習をしておくこと
	15	ROUND1～10のまとめ			試験範囲の部分の復習をしておくこと

評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト (3)宿題・レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	○	○			80%
	小テスト	○	○			10%
	宿題・レポート	○	○			10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	岡本 彩
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	海外ビジネス科1年						
授業概要	自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーションなど、社会で生き抜くうえでの“人間力”の根本は、自分の環境における感謝の気持ちにある。日常生活の中で「与えられることが普通」と思ってしまう“他者依存”から脱却し、周囲との協働を保ちつつ使命感を持って行動できる自立心を目指す。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		自ら考える、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。	
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシック I 感謝心と思いやりの教育(学生用テキスト)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				振り返りレポートの作成	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				振り返りレポートの作成	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				振り返りレポートの作成	
	4	マナーの本質 I				振り返りレポートの作成	
	5	マナーの本質 II				振り返りレポートの作成	
	6	グローバルシティズンとしての日常				振り返りレポートの作成	
	7	グローバルシティズンとしての目標				振り返りレポートの作成	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて				振り返りレポートの作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表	○			◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、不合格となる。						

科目名	社会教養ⅠA						
科目名(英)	Social StudyⅠA						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	岡本 彩
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	海外ビジネス科1年						
授業概要	麻生塾の規則を知る。学科の特性を知る。団体行動の際、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション力などを養う。クラス運営に必要な役割を理解し、役割を担う。必要に応じて話し合いをし、自治を行う。 就職に必要な準備をする。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		自身で目標を設定し、達成に向けた行動を心がけることができる。	
	○			○		就職活動準備に向けて、自ら情報集を行い、希望職種についての理解を深める。	
				○		提出期限を遵守することができる。	
				○		クラスで方向性を共有し、協調性を深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	特になし。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	学則について～ルールとマナーとは					
	2	目標設定・クラス内での自身の役割について				目標を考えてくること	
	3	英語学習の重要性、E-LearningなどITを使った学習と就職活動					
	4	就職環境を知ろう①(業界の動向)				希望職種の試験スケジュールを調べてくること。	
	5	就職環境を知ろう②(業界の求める人材とは?)				希望職種の試験スケジュールを調べてくること。	
	6	自己分析とキャリアプランニング①(自分史の作成)				ターニングポイントを列挙すること。	
	7	自己分析とキャリアプランニング②(10年後の自分について考える)				将来の姿を具体的に箇条書きにすること。	
	8	前期の振り返り・夏休みの過ごし方について					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)前期中に1回作文を提出する。(2)その他提出物の期限を遵守する。(3)自分の考えを積極的に発言する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文提出状況	○	○		○		50%
	授業内での発言	○	○		○		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						